



# 緑風だより

第88号  
令和4年3月

発行 障害者支援施設 神奈川県立さがみ緑風園  
〒252-0328 相模原市南区麻溝台2-4-18  
TEL.042-766-2255  
URL [www.pref.kanagawa.jp/cnt/f488/](http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f488/)



## ～ 人権擁護・虐待防止「人権関連重点目標」の取り組み ～ 生活支援部長 堀口 利里

さがみ緑風園では、利用者の権利擁護の推進に向けて、施設サービス自己評価や虐待防止研修、身体拘束を行わない支援など、様々な取り組みを行っています。

今回は、その中でも「人権関連重点目標」の取り組みについてご紹介します。

「人権関連重点目標」は、施設サービス自己評価の結果などから浮き彫りになった利用者支援にあたっての課題について、4か月スパンで園全体の大きな目標を設定し、それに基づき各ホームでより具体的な職員の行動目標を立てます。そして、4か月間取り組んだ結果を、利用者の皆さんにも意見を伺いながら振り返りを行い、さらなる支援の向上につなげていくというものです。

今年度は、園全体では、4月～7月「基本姿勢強化期間」、8月～11月「良質なサービス提供への取組強化期間」、12月～3月「権利擁護・虐待防止強化期間」という大目標を設定しました。

あるホームの4月～7月の行動目標は、「ナースコールがあった場合は迅速に対応します。すぐに行けない場合には目安の時間を伝えます。」でした。利用者の皆さんからは概ねできていたとの評価とともに、「逆の立場だったらどうかを意識して」といった貴重なご意見もいただきました。ホーム業務などで忙しく動いている職員は、ナースコールがあっても、ついつい「少し待ってください」と言ってしまう。いつまで待てばいいのか目安の時間をお伝えするといった、待つ側の気持ちになって支援することが肝要です。

また、あるホームでは、「利用者が知りたいことを調べて情報提供します。日々の生活の中で、選択肢や選択の機会を増やします。」という行動目標を設定しました。利用者の皆さんが欲しいもの、やりたいこと、住みたい場所などを、自分で選んで決めるために、選択肢を提示する等の適切な情報提供は欠かせません。コロナ禍で外部との接触が制限される生活が続く中、情報もおのずと限られ、選択の機会も少なくなりがちです。普段以上に、心がけて取り組む必要があると感じています。

このように、毎日の支援を振り返り、一つひとつ改善していくことの繰り返しですが、利用者の生活の質の向上、ひいては、人権擁護や虐待防止につながるものと考えて日々取り組んでいます。



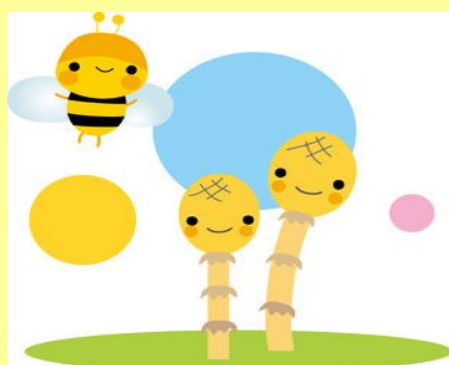
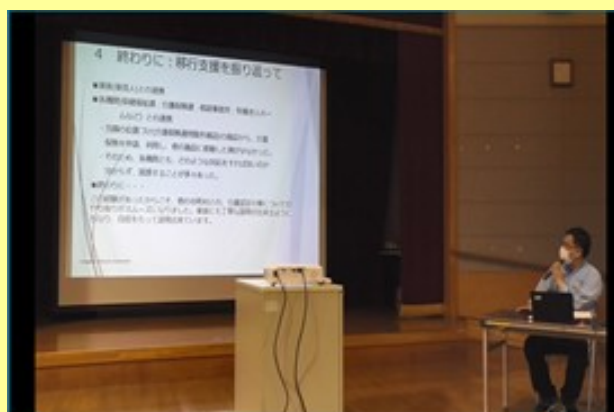
## ～ 令和3年度 職員実践報告会 ～ 地域支援課長補佐 西川 聡

今年度の職員実践報告会のプログラムは、二部制として、第一部を「各セクション等における実践報告」第二部を「適切な生活の場への移行にかかる実践報告」として企画しました。第一部は8ホーム、リハビリスタッフ、採用1年目の職員それぞれによる発表でした。8ホームの発表は、新たに導入した福祉機器や既存の移乗用具などをいかに、ホームに定着させていくかということの実践報告でした。長期にわたり計画的に取り組んでいただき、とても素晴らしい発表でした。リハビリの発表は、利用者の骨折防止のとりくみについての発表でした。骨折の予防は職員の介護技術向上ほか適正な福祉機器の取扱い、医療的なアプローチ等が複合的に作用して達成できるものなのだと改めて感じました。新採用職員の発表は、日々の業務を振り返り、学んだことの他疑問や今後の課題についても触れられており、ますます今後の活躍を期待させていただける内容でした。

第二部は、適切な生活の場への移行にかかる支援の取組みを各ホームから発表していただきました。それぞれ利用者ごとに丁寧に支援をしていった経過がまとめられており、これまでの支援の経過を振り返るとともに、各ホームを俯瞰して支援の実践を知ることができ、今後の支援について学ぶ事の多い内容でした。

また、今年度は、県の施設コンサルテーション業務による派遣アドバイザーとして「丹沢自律生活センター」の岡西博一氏におこし頂き、報告・発表の感想とコメントをいただきました。

コンサルテーションを含んだ今回の実践報告会を通じて、参加した全ての職員がこれまでの支援を客観的に評価することが出来たとともに、当事者目線の障がい福祉実現のために、今後当園が進めるべき方向性を改めて考えることが出来た1日となりました。



編集後記  
暖かくなる日も  
徐々に増え、春は  
もうすぐそこまで  
来ています。今年  
は利用者およびご  
家族の皆様にとつ  
て、様々な可能性  
が広がっていく年  
になることを希望  
しています。